

「いわて県民計画(2019~2028)」

第1期アクションプランの 進捗状況について

I 健康・余暇

P 1~2

4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます

- (4) ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実
- (5) 障がい者スポーツへの参加機会の充実
- (6) 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大

III 教育

P 3~6

13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます

- (1) 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実
- (2) 適切な部活動体制の推進
- (3) 健康教育の充実

19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます

- (3) アスリートの競技力の向上
- (4) 障がい者アスリートの競技力の向上
- (5) スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上
- (6) スポーツ活動を支える指導者等の養成

IV 居住環境・コミュニティ

P 7~8

26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります

- (2) スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進

I 健康・余暇

4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、 生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます

課 題	今後の方向
<p><具体的推進方策④> ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実</p>	
<p>成人の週1回以上のスポーツ実施率は、順調に推移していますが、40代の実施率は他の年代と比べると低い傾向にあることから、年代に応じたスポーツを楽しむ環境づくりを進める必要があります。</p> <p>地域の子どもたちのスポーツ活動を広げる受け皿として、総合型地域スポーツクラブ等の充実を図る必要があります。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響による各大会の中止や、施設の休館等により、県営スポーツ施設の利用者数が減少していることから、県民が安心してスポーツを楽しむ環境の整備を図る必要があります。</p> <p>県営スポーツ施設の利用予約方法は、施設によって取扱いが異なっており、利便性向上に向けた取組が必要です。</p>	<p>総合型地域スポーツクラブの活動活性化などを通じて、身近な地域でスポーツ活動を実施できる環境の整備に取り組むとともに、夜間や週末におけるスポーツ教室の開催など、各年代がスポーツを楽しむ機会の充実に取り組みます。</p> <p>総合型地域スポーツクラブの充実を図るため、指導者の育成や、学校部活動の地域移行に向けたモデル事業などに取り組みます。</p> <p>施設における新型コロナウイルス感染症対策の徹底や、ホームページやSNS等を活用した施設やイベント等の情報発信を行うとともに、オンライン配信に取り組みます。</p> <p>スポーツ施設利用者がより便利に利用予約できるよう、スマートフォン等で施設予約が可能な仕組みの構築を検討します。</p>
<p><具体的推進方策⑤> 障がい者スポーツへの参加機会の充実</p>	
<p>身近な地域で自らの興味・関心・適性等に応じて、障がいのある人もない人も共にスポーツを楽しむ、交流を図る機会を充実させる必要があります。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響により、障がい者のスポーツ大会やスポーツ教室等の参加者数が減少していることから、コロナ禍に対応しながら実施する必要があります。</p>	<p>障がいのある人もない人も共に楽しめる機会を提供するため、競技団体等と連携したスポーツ体験会やスポーツ教室等を実施していきます。</p> <p>また、スポーツ教室等の開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施するほか、ホームページやSNS等によりスポーツ教室等の認知度向上と参加者の増加に取り組みます。</p>
<p><具体的推進方策⑥> 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大</p>	
<p>年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらずスポーツに取り組める「超人スポーツ」の普及等を通じ、県民がスポーツに参加する機会を増やしていく必要があります。</p>	<p>オープンセミナーの開催等を通じ、「超人スポーツ」の認知度向上を図り、年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、共に楽しめるスポーツへの参加機会の拡大に取り組みます。</p>

総 括

以上のことから、県民誰もが健康的に暮らし、年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず身近な地域でスポーツを楽しむ機会の充実を図るため、競技団体や総合型地域スポーツクラブと連携し、コロナ禍に対応したスポーツ教室等の開催に取り組みます。

反映結果

<新規事業の創設>

- 県営スポーツ施設の利用者の利便性向上を図るため、「スポーツ施設DX利用促進事業費（R4予算2,914千円）」を創設し、スマートフォン等による施設予約システムの開発に取り組みます。
- 障がいの有無等に関わらず、誰もがスポーツを楽しむ機会を確保するため、「インクルーシブスポーツ※推進事業費（R4予算2,136千円）」を創設し、指導者の育成、競技体験会、交流大会などに取り組みます。

<既存事業の拡充>

- なし

<制度・組織体制の見直し>

- なし

<その他取組の改善強化等>

- ライフステージに応じてスポーツを楽しめるよう、各種スポーツ教室の開催や施設開放、企業等へ健康づくりの指導者派遣を行うなど、年代に応じた運動機会の確保に取り組みます。
- スポーツを楽しむ環境を整備するため、盛岡市と共同で盛岡南公園野球場（仮称）の整備を推進します。
- 国が示す、中学校における休日の部活動の段階的な地域移行を促進するため、「地域部活動推進実践研究事業費（R4予算9,421千円）」により、中学生スポーツ・文化活動に係る研究会においてまとめられた提言を踏まえ、地域移行に向けたモデル事業等を引き続き推進します。
- 総合型地域スポーツクラブ等の運営体制の強化を図るため、運営・指導に係る資格の取得支援を通じて人材育成に取り組みます。
- 県営スポーツ施設を安心して利用できるよう、新型コロナウイルス感染症対策を講じるとともに、県民がスポーツ大会を観戦する機会を確保するため、スポーツ大会のオンライン配信等に取り組みます。
- これまで考案された「超人スポーツ」を県内に定着させるため、民間団体と連携し、ワークショップやオープンセミナーの開催に取り組みます。

【用語解説】

- ※ インクルーシブスポーツ
障がいの有無や程度にかかわらず多様な人々が共に実施できるスポーツ

Ⅲ 教育

13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます

課 題	今後の方向
<p>＜具体的推進方策①＞豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実</p>	
<p>運動習慣等に係る諸調査を活用し、児童生徒の実態を把握しながら、各学校における個別指導を含めた体力向上に向けた取組を改善する必要があります。</p> <p>児童生徒が「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」を身に付けるために、学校と家庭・地域が連携を図った取組の充実を図る必要があります。</p>	<p>運動（遊び）やスポーツに親しむ習慣を身に付けさせるため、学校・家庭・地域が連携・協働し、「希望郷いわて 元気・体力アップ60 運動」などにより、「よりよい運動習慣形成」「望ましい食習慣の形成」「規則正しい生活習慣形成」について一体的な取組を推進します。</p> <p>また、児童生徒がスポーツの意義や価値を学び、スポーツへの興味・関心を一層深められるよう、体育授業の改善などに取り組みます。</p>
<p>＜具体的推進方策②＞適切な部活動体制の推進</p>	
<p>全ての学校において、部活動における指導方針等について、学校、保護者、外部指導者等の共通理解が図られ、望ましい活動となるよう、学校に対する働きかけを行う必要があります。</p> <p>各学校の部活動への加入が、「任意加入」となるよう、生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動を周知する必要があります。</p>	<p>「部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、指導者研修会の実施や、学校、保護者、外部指導者等の共通理解を醸成し、また、「中学生スポーツ・文化活動に係る研究会」でまとめられた提言の周知を図り、望ましい部活動の実現に取り組みます。</p>
<p>＜具体的推進方策③＞健康教育の充実</p>	
<p>本県では、運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化がみられる中で、全国に比較し小中学生で肥満傾向児の出現率が高いことから、生活習慣病など健康リスクを未然に防止するため、低年齢から自ら考え判断できる力を養っていく必要があります。</p> <p>また、スマートフォンなどの情報端末の普及によるSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）上での誹謗中傷などのいじめやネット犯罪等に巻き込まれる危険が深刻化していることを踏まえ、情報モラル教育の推進や保護者への啓発活動を更に推進する必要があります。</p>	<p>生涯にわたって健康的な生活を送るために必要な力の育成に向け、学校・家庭・地域が連携・協働し、「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」などにより、「よりよい運動習慣形成」「望ましい食習慣の形成」「規則正しい生活習慣形成」について一体的な取組を推進します。</p> <p>また、児童生徒が、情報化社会において適切に行動する考え方や態度を身に付ける指導を行うため、教員研修を実施し、情報モラル教育を推進するとともに、インターネット利用等に関する普及啓発活動を保護者や地域、関係団体と連携して推進します。</p>

総括

以上のことから、児童生徒の健やかな体を育む教育の推進のため、運動に親しむ資質・能力や、健康に関する正しい知識に基づき自ら判断できる力を身に付けることができるよう、学校体育の充実、適切な部活動体制の推進及び健康教育の充実に取り組みます。

反映結果

<新規事業の創設>

- 運動習慣、食習慣及び生活習慣の改善等の各取組の一体的推進のため、「60プラスプロジェクト推進事業費（R4予算3,012千円）」を創設し、各習慣改善の計画立案を支援するための児童生徒向け資料作成等を行うとともに、保健管理、保健教育等における一人一台端末等のICT機器の活用方法の調査研究、データに基づく一人ひとりの課題に応じた保健指導や児童生徒自身が実践できる健康管理等に取り組みます。
- 児童生徒がスポーツの意義や価値を学ぶとともに、スポーツへの興味・関心を深めるため、「全国中学校体育大会推進事業費（R4予算5,000千円）」を創設し、岩手県実行委員会の各団体・機関と連携して大会開催を推進します。
- 児童生徒が生涯にわたって健康的な生活を送るのに必要な力を育成するため、「全国学校保健・安全研究大会負担金（R4予算3,000千円）」を創設し、岩手県実行委員会の各団体・機関と連携して大会開催に向けて取り組みます。

<既存事業の拡充>

- なし

<制度・組織体制の見直し>

- なし

<その他取組の改善強化等>

- 中学生のスポーツ及び文化活動における研究会でまとめられた生徒本位の有意義な活動の在り方について普及啓発を図るため、「中学生スポーツ・文化活動調査事業費（R4予算758千円）」により、研修会の開催等による周知や、岩手県における部活動の在り方に関する方針等を検討するなど、多様な学校における部活動の支援に取り組みます。
- 部活動の質的向上や教員の負担軽減のため、部活動指導員が未配置の市町村教育委員会や県立学校に対して制度の理解と活用の促進を図るとともに、「教職員人事管理費（部活動指導員配置事業費）（R4予算55,515千円）」により、配置に係る好事例の紹介等により部活動指導員の配置拡大を推進します。
- 国が示す、中学校における休日の部活動の段階的な地域移行を促進するため、「地域部活動推進実践研究事業費【再掲】（R4予算9,421千円）」により、中学生スポーツ・文化活動に係る研究会においてまとめられた提言を踏まえ、地域移行に向けたモデル事業等を引き続き推進します。
- 児童生徒のインターネットやSNSの利用が日常化している中、情報モラルに基づき正しく活用できる資質・能力を児童生徒が身に付けるため、児童生徒・教職員向けの情報モラルに係る資料を配付して授業等に活用するとともに、情報モラル教育の各学校における効果的な実践事例の普及に取り組みます。また、保護者や地域、関係団体と連携し、インターネット利用のルール等に関する普及啓発活動に取り組みます。



19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます

課 題	今後の方向
<具体的推進方策③>アスリートの競技力の向上	
<p>国際大会等で活躍するトップアスリートを育成するためには、日本スポーツ協会等と連携し、中長期的な視点に立った育成や、日本代表や全国で上位入賞を目指す選手に対する支援などに継続的に取り組む必要があります。</p> <p>また、スーパーキッズ発掘・育成事業が、各競技団体の拠点が集中する内陸部に偏在しているため、遠隔地の受講生の移動の負担を減らす必要があります。</p>	<p>引き続き、日本代表クラスのトップアスリートや、日本代表入りの可能性を持つ全国大会入賞レベルのアスリートの活動経費を支援するとともに、県体育協会内に設置した「岩手スポーツアスリート無料職業紹介所」により、県内就職を希望するアスリートの発掘と雇用企業の開拓に取り組めます。</p> <p>また、スーパーキッズ受講生へのタブレット貸与による遠隔指導システムの構築に取り組めます。</p>
<具体的推進方策④>障がい者アスリートの競技力の向上	
<p>障がい者アスリートの発掘・育成を推進するために、冬季種目を含めた幅広い競技を体験し、選手個々の能力の適性を見極め、競技選択や競技力向上に繋げていく必要があります。</p> <p>また、スポーツ医・科学に裏付けられた専門的指導を受ける機会の充実を図る必要があります。</p>	<p>関係競技団体と連携し、陸上競技、卓球、水泳、サッカーなど比較的取り組みやすい種目の競技研修や、スポーツ栄養・スポーツメンタルの研修を実施するなど、障がい者アスリートの発掘・育成に取り組めます。</p> <p>また、障がい者アスリートへのスポーツ医・科学サポートを実施し、競技力向上を図るとともに、最新の競技用具の導入による各種大会での成績向上に取り組めます。</p>
<具体的推進方策⑤>スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上	
<p>アスリートの効果的な競技力の向上を図るため、スポーツ医・科学の知識と技術に基づき、測定データ等を活用した指導が求められます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響により、アスリートに対するトレーナーによるサポートや、スポーツ医・科学の知見を有する講師による講習など、対面での事業実施が難しい状況であることから、コロナ禍に対応したプログラムを提供する必要があります。</p>	<p>スポーツ医・科学の有識者やスポーツ指導者等によるデータ活用ワーキンググループにおいて、指導現場における動作分析や体力測定等によるデータの効果的な活用方法の検討に取り組めます。</p> <p>また、アスリートを含む幅広い年代を対象として、一人でも手軽に効果的なトレーニングに取り組めるよう、スポーツ医・科学の知見を取り入れた運動プログラム動画「レッツ！ぺっこトレ！！」の定期的な配信に取り組めます。</p>
<具体的推進方策⑥>スポーツ活動を支える指導者等の養成	
<p>選手・指導者の知識・技術の底上げを図るため、アスリートや障がい者アスリートを支える人材の育成、スポーツ医・科学の知見を活用したアスリートを支える環境整備などに取り組む必要があります。</p> <p>また、女性アスリートの活躍のため、女性特有の健康問題に関する正しい知識を有する指導者を育成する必要があります。</p> <p>さらに、新型コロナウイルス感染症の影響による講習会参加者数の減少により、公認障がい者スポーツ指導者資格登録者数が伸び悩んでいることから、安心して受講できる環境の整備や、資格登録に向けた積極的な周知に取り組む必要があります。</p>	<p>アスリートを支える人材として養成してきた「いわてアスレティックトレーナー」第3期生を活用し、スポーツ医・科学の知見によるアスリート支援環境の充実を図るとともに、女性トレーナーによるサポート活動の充実に取り組めます。</p> <p>また、女性特有の健康問題に関する講習会を開催し、女性アスリートが安心して競技を継続できる環境の整備に取り組めます。</p> <p>さらに、障がい者スポーツ指導員養成講習会の開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、情報発信を強化するなど、養成講習会の参加者数の増加に取り組めます。</p>

総括

以上のことから、スポーツを担う人材を育てるため、優れた指導環境による中長期的な視点に立った育成とスポーツ医・科学の知見を活用した競技力の向上に向けた取組や、女性アスリートや障がい者アスリートが継続して競技に取り組むことができる環境整備を行うとともに、スーパーキッズ受講生への遠隔指導システムを活用した育成プログラムに取り組みます。

反映結果

<新規事業の創設>

- 最新の技術を活用した競技力向上を図るため、「スポーツアナリティクスサポート事業費（R4予算8,255千円）」を創設し、日本代表等で採用されている映像分析ソフトウェアの導入により、映像データに基づいた効率的かつ効果的な指導の普及に取り組みます。

<既存事業の拡充>

- アスリートの県内定着を図るため、「いわて競技力向上事業費（R4予算130,655千円）」を拡充し、「岩手スポーツアスリート無料職業紹介所」に雇用支援員を新たに配置し、企業向け合同説明会の開催や、企業への個別訪問を通じて、アスリートの県内就職の支援に取り組みます。

<制度・組織体制の見直し>

- なし

<その他取組の改善強化等>

- 世界で活躍するトップアスリートの輩出に向けて、日本代表としてオリンピック等国际大会での活躍が期待されるアスリートに加え、国内大会で入賞経験のある潜在能力を持ったアスリートに対する活動経費の支援に取り組みます。
- デジタル技術を活用したスーパーキッズの受講環境の整備と、更なる運動能力向上のため、受講生へタブレットを貸与し、オンラインによるプログラム受講や、個々の特性に応じたトレーニングメニューの提供など、遠隔指導の実施に取り組みます。
- 障がい者アスリートの発掘・育成を図るため、強化指定選手に対する競技活動に要する経費を支援するとともに、体力測定や競技研修に取り組みます。
- 障がい者アスリートの競技力向上を図るため、アスリートに対するトレーナー派遣や最新競技用具の導入に取り組みます。
- スポーツ医・科学の知見に基づく県民の健康増進を図るため、運動プログラム動画「レッツ！ぺっこトレ！！」の配信によるトレーニングメニューの提供や、出前授業による健康づくり教室等の開催に取り組みます。
- アスリート支援の充実を図るため、いわてアスレティックトレーナーと競技団体のマッチングを進めるとともに、女性アスリートの健康問題に関する講習会などを開催し、指導者等の資質向上に取り組みます。
- 障がい者スポーツに係る指導者の増加を図るため、資格取得に向けた指導員養成講習会を新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で開催するとともに、SNSやホームページ等を活用し、資格取得のメリットや、講習会の参加募集等の情報発信の強化に取り組みます。

IV 居住環境・コミュニティ

26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります

課 題	今後の方向
<具体的推進方策②>スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進	
<p>スポーツを生かした地域活性化を図るため、ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした国内外との交流の継続や、スポーツ大会や合宿の誘致等によるスポーツツーリズムの拡充により、交流人口の拡大に取り組む必要があります。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ大会・合宿等の参加者数が減少していることから、感染症対策の徹底のほか、コロナ禍においても実施可能な合宿誘致に取り組む必要があります。</p> <p>県内トップ・プロスポーツチームと連携して行うスポーツ教室等においては、参加者数が増加傾向にあるものの、認知度向上に向けた情報発信の強化等を継続して行う必要があります。</p> <p>スポーツマスターズや冬季国体等の大規模大会の成功に向けては、市町村等の関係機関と連携した受入体制を整備するとともに、マイルストーンイベント等の実施により、県民の関心を高め、大会成功に向けた機運の醸成が必要です。</p>	<p>ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催のレガシーを生かしたメモリアルイベントの開催や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプの受入実績を生かした大会・合宿誘致など、交流人口の拡大に取り組みます。</p> <p>大会・合宿等の開催に当たっては、感染症対策を徹底するほか、過去に本県で合宿を実施したチームが、再度合宿を実施してもらえよう、定期的なアプローチに取り組みます。</p> <p>トップ・プロスポーツチームと連携して行うスポーツ教室等においては、認知度向上を図るため、情報発信の強化に取り組みます。</p> <p>官民一体のスポーツ推進体制の構築により、スポーツの力を生かした健康社会の実現と地域づくりに取り組みます。</p> <p>日本スポーツマスターズ2022岩手大会や特別国民体育大会冬季大会スキー競技会の成功に向けて、受入体制等の整備や、特設HP等による情報発信等を通じて、大会成功に向けた機運の醸成を図るとともに、聖火リレーボランティアを大規模大会での協働につなげるなど、広域的かつ持続可能な仕組みづくりに取り組みます。</p>

総 括

以上のことから、スポーツを生かした地域活性化を図るため、日本スポーツマスターズ2022岩手大会や特別国民体育大会冬季大会スキー競技会などのスポーツイベントを開催するとともに、スポーツ大会や合宿の誘致などに取り組み、人的・経済的な交流を継続的に推進していきます。

なお、スポーツ活動に対する新型コロナウイルス感染症の影響について、継続的に把握するとともに、活動の活性化に向けた支援策を講じます。

反映結果

<新規事業の創設>

- スポーツの力による健康社会の実現と人的・経済的交流の推進を図るため、「いわてスポーツプラットフォーム推進事業費（R4予算5,275千円）」を創設し、官民一体によるスポーツ推進体制「いわてスポーツプラットフォーム」の構築に取り組みます。

<既存事業の拡充>

- なし

<制度・組織体制の見直し>

- なし

<その他取組の改善強化等>

- ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催の経験を生かした人的・経済的交流を推進するため、県内トップチームとの連携等による「ラグビー県いわて」のPRに取り組みます。
- 国内トップクラスの施設である、県営運動公園スポーツクライミング施設を生かし、競技団体と連携して、国内大会に加え、国際大会の誘致に取り組みます。
- スポーツを通じた交流人口の拡大を図るため、地域の受入体制の整備や、競技団体と連携した中央競技団体への働きかけを通じて、スポーツ大会や合宿の誘致を推進するとともに、県内各地で行われているスポーツアクティビティの普及等に取り組みます。
- スポーツを通じた地域活性化を図るため、県内のトップ・プロスポーツチームと連携し、スポーツ教室等の開催や、県外試合会場での県産食材や世界遺産を含む観光等の情報発信に取り組みます。
- 日本スポーツマスターズ2022 岩手大会や特別国民体育大会冬季大会スキー競技会の成功に向けて、受入体制等の整備や、マイルストーンイベントの開催などによる機運の醸成を図るとともに、聖火リレーボランティア等との協働につなげる仕組みづくりに取り組みます。